

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4311010997		
法人名	医療法人牧念人会		
事業所名	グループホーム草佳苑		
所在地	熊本県菊池市深川400番地		
自己評価作成日	平成26年9月10日	評価結果市町村受理日	平成26年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成26年11月10日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ゆったりとした空間の中で、入居者と職員が共に過ごす時間を大切に、一人ひとりの思いや生活を尊重し、自立に向けた取り組みを目指している。又、毎日の生活の中で健康体操・嚥下体操を充実し、レクリエーションの時間を楽しんで頂いている。毎食後の口腔ケアを充実し、担当職員ごとに立てた機能訓練を取り入れ、残存機能の維持に努めている。事業所が診療所の2階にあり、主治医との交流も深く、病状の急変時や緊急時も迅速に対応できる。くまもとキャリア教育応援団に登録し、実習生の受け入れにも力を入れている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

母体診療所の2階にあるホームでは平均介護度3.6という重度化と、若年期認知症ケアの両局面にある。職員は専門職として質の向上に努める事を目標として内部研修の充実や、“私の資質向上計画”により育成やモチベーション、気づき・観察力(口メモの利用)の強化に繋げている。例として、発語困難者に根気よく関わり、おむつ外しや食事意欲に成果が表れている。入居者個々の生活リズムに寄り添い、カラオケやきくちゃん体操等の集団ケアや、ベランダでイチジクを育てたり、掃除に勤しむ入居者等残存能力を自然な形で発揮できる環境は理念の実践である。管理者を中心として、職員間のチームワークも良く、安心した生活が出来る場所・雰囲気にも腐心し、運営推進会議を生かした体制は更に地域との関係に深まりをみせ、入居者同士の仲良い様子も垣間見えるホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「愛・尊敬・感謝」を基に、毎年職員全員で見直しを検討し、今年も理念の継続を決定した。毎月実施している職員会議では全員で理念を確認している。1)手と手のぬくもりを感じる穏やかな生活を支えます。2)その人の持っている力を自然な形で引き出せるような環境を作ります。3)地域とのふれあいを大切にしたい暮らしを支えます。	法人の理念をもとにグループホーム独自の理念3項目を掲げ、毎月の職員会議の中での唱和により再認識とし、年度末には現状に即した理念であるか見直し、今年度も継続している。理念を踏まえた日常であることは、残存能力を生かしながらの生活ぶりに表れている。また、運営推進会議の中で理念を啓発し、理念に即した事業目標を立て課題を明確にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に近所のスーパーに買い物に出かけ友人知人にあえる機会を設ける。地元での外食、軽トラ朝市見物など在宅時の生活の継続に努めている。又運動会・敬老会・焼肉パーティへの招待。地元消防団からの防災訓練参加。近隣の方へ離苑された方の見守り保護依頼をしている。	ホームの行事に運営推進会議委員を招待したり、無断外出時の近隣住民の見守り協力等を依頼している。買物や外食時等知人等との歓談する機会が多くなる等診療所の2階がホームであるという立地を払拭すべく地域に出ながら交流している。また、区長を通じ校区行事案内が寄せられたり、地域の活動予定等を把握し、軽トラ朝市や菊池神社祭り等に出かけている。	近くから入居者が多くなり、家族や友人等の訪問はあるが、区民としてのかかわりは難しいとのことである。外に向けてホームの存在をアピールする看板の設置等を検討いただきたい。また、小学生から暑中見舞いが届けられており、このことをきっかけとして小学校との交流に繋ぐことが出来る様、今後の展開に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターとして地域で見守りの協力。障害者施設との交流。キャリア教育応援として県に登録しており、高校生の介護福祉士取得への実習受け入れに力を入れている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の開催では、活動報告・ヒヤリハット事故報告、事例検討報告、ケース会議など詳細に報告し意見を求めている。月毎の議題では、見取り状況報告・避難訓練参加依頼・ご家族からの希望要望、意見に対する検討会・1年間を振り返り意見交換・介護サービス情報公表、地域密着型事業所の外部評価受け入れ説明など多岐にわたる。	定期的開催している運営推進会議は、多くの資料を基にした報告や課題に応じた話し合いが行われている。この会議に防災訓練を組み入れ、外部評価の意義等も説明している。また、ホームが力を入れているひやりはつとをもとにした意見交換の他、市の動向等も把握する機会として生かされる等有意義な会議が開催されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者には、運営推進会議に毎回出席頂いており、積極的に事業所の取り組みを報告し、アドバイスや意見交換が来ている。また、市が新しく取り組んでいる「介護相談員派遣事業」について説明を受ける。事業所も、認知症見守りネットワーク・認知症アドバイザー・認知症サポーターなど積極的に協力している。	運営推進会議に市の高齢者支援課や地域包括支援センターからの参加を得、ホームの現状を発信する他、介護相談員制度の説明や市の動向等把握している。また、介護認定更新申請等に出向き、情報交換に努めたり、認知症アドバイザー・認知症サポーター等として協働している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室のドアや窓、施設の出入り口など日中は施錠しておらず、入居者は自由に移動できる。毎年度、身体拘束廃止に向けての研修を重ね、研修内では「介護保険指定基準において禁止の対象となる具体的な行為について確認する」、「身体拘束3原則スピーチロック・フィジカルロック・ドラッグロック」については特に厳しく指導している。	身体拘束廃止宣言をしたホームであるが、内部研修により再認識としており、スピーチロック・フィジカルロック・ドラッグロック等正しく理解している。帰宅願望や外出傾向に所在確認の徹底や、万が一に備えその日の服装等を記録として残し、近隣住民の見守り協力を依頼している。夜間の離床による転倒防止対策等具体的なケースを全員で検討し、極力センサーマットに頼らないケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連については、年間内部研修で計画し、繰り返し研修を積んでいる。研修の中から、様々な形態の虐待について学び一人ひとりの意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修の年間計画にて毎年度学習している。当事業所では現在、3人の方が成年後見制度を利用されており、過去に1人の方が日常生活支援事業を利用されていた。又、成年後見制度の必要性を感じた方のご家族には制度についての説明を行ったり、包括支援センターの紹介を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、契約時十分な説明を行っており、入退所後トラブルに至ったことはない。又、長期に至る利用者に対してはグループホーム以外の選択肢についての説明も行っている。介護保険改定の際、利用料の変更が発生する時は運営推進会議で説明し、更に、分かりやすい文章で説明し、同意を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会での意見交換や、事業所入口に設けた意見箱、運営推進会議の際、要望・意見交換の機会を設定し市職員・区長・民生員・老人会・家族・利用者を交えて意見交換を行っている。	入居者には日々の関わりの中で要望等を引き出している。家族へは意見箱の他、家族会長を中心に家族のみで話し合い、会長を通じて意見や要望が出されている。また運営推進会議の中でアンケート形式により聞き取りし、利用者・家族からの希望や意見に対する検討を行い、サービスに反映させている。担当職員による毎月の報告書や運営推進会議議事録と資料は情報の共有化のみならず信頼として生かされており、苦情は出されていない。	玄関入口前の意見箱の設置は家族が意見を出し易いようにとの配慮と思われるが利用された様子は無い。メモ用紙等の書式変更により、更に家族や訪問者に忌憚りの無い意見や気づきの収集の機会とされることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は毎月の職員会議に出席し、職員からの「提案事項・協議事項」など共に検討し意見交換を行っている。又、会議内容については会議録を作成し出席できなかった職員へも伝達し全員の意見が反映されている。	管理者は申し送り時や日々のケアの中で、職員の意見等を聞き取り、業務改善等随時検討しており、重度化傾向に今年は風呂場の手すりが設置されている。また、代表も参加される毎月の職員会議は、提案事項を事前に投げかけて、協議事項として話し合っており、管理者不在時の対応や希望休の取り方等合議により決定している。“意欲を持った現場にしたい”との意識も高く「私の資質向上計画」に職員個々のスキルアップの姿勢を挙げ、代表や管理者による面接も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員一人ひとりと面談し、職員個々の資質向上目標を把握し、資格取得への援助体制を設けている。職員はこれを活用し、段階的に資格を取得している。本年度は、介護支援専門員・介護福祉士受験の希望がある。又、実務者研修の受講申し込みも毎年度している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、年間計画を立て施設内の研修を実施している。又、地域密着型サービス連絡会やブロック別研修会など職員の習熟度に応じて受講させている。資質向上に向けて、資格取得への援助制度を設け積極的に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会主催の研修や講演に出席。グループホーム鹿本・菊池ブロック研修会班別研修準備打ち合わせ交流。又、研修会参加。山鹿・菊池ブロック職員交流会に参加し情報交換をしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ず面会し、日常的な会話の中から本人の現在の想いや不安など傾聴し、同時に家族から情報を得るようにしている。又、入所初期の段階ではなるべく職員が関わりを多く持ち安心できる環境を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時本人や家族が抱えている諸問題や入所に対する不安、入所後の病院選択、家族との交流、外出・外泊など不安は多岐に至る、その一つひとつ丁寧に説明して納得頂いている。又、事情により早急に入所を希望される方については、他の事業所の紹介など支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時、本人・家族の抱えている問題をしっかり傾聴し、フォーマルサービス、インフォーマルサービスも視野に入れ適した介護サービス利用を紹介している。又、早急のサービス利用が必要と思われる方に対しては他の事業所の紹介も実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中でそれぞれの能力に応じ食材買い出し、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、調理(できる方のみ)、おやつ作り、誕生会用ケーキ作り、行事用飾り物作りなど協力して行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病気や状態の変化など随時報告し必要時は相談している。又、毎月「報告書・預り金報告・草佳苑便り」を郵送し状況報告を行っている。年間行事である運動会や敬老会は運営推進会議で議題としてとりあげ家族の意見を取り入れて実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時利用していたスーパーに買い物に出掛ける、美容室の利用を継続する、軽トラ朝市に出かけ馴染みの商店や友人知人との会話を楽しむ、家族と墓参りに出かける。又、近所の農園にぶどうを食べに行き交流している。近くの回転すしやジョイフルを利用した外食も楽しみにされている。	在宅時の生活の線として捉え、自宅前の美容室に家族と出かけたり、訪問美容、馴染みのスーパーでの買い物、軽トラ朝市等の外出時には近隣住民との歓談等地域資源を活用しながら、これまでの関係性を継続して支援している。家族支援による墓参やドライブかてらに姉妹に家に立ち寄るなどの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や相性を考慮して座席配置をしている。そりが合わない方同士の些細なトラブルにも迅速に介入し早期修復を図っている。お互い利用者同士声を掛け合ったり助け合ったりされている場面もほほえましく見ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病状の悪化や身体状態の低下から余儀なく入院となる場合、主治医や家族、受け入れ先の担当者と十分な話し合いを重ね、安心して移行できる体制を築いている。又、受け入れ先については、情報提供や本人への面会など支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成前、本人・家族から「希望・意向」など確認している。更に、意思表示が困難な利用者については、日頃のさりげない会話の中から本人の想いや希望を引出ミーティングで提案しプランに反映している。又、状態の変化や細やかな観察情報として、一口メモに記入し活用している。	本人に「ここでの生活はどうか、困ったことは無いかな」等の聞き取りや食のアンケートでは選択肢を投げかけ、発語の無い入居者も表情・うなづきや笑顔をバロメーターとして推察しながらケアに反映させている。職員は日々“一口メモ”にその日の気づき・観察の結果等記載し、ケアプランの見直しに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、家族からの聞き取りで生活歴や暮らし方・趣味・家庭環境・身体状態などの情報を得る。又、ケアマネージャーや利用していた事業所からの情報を基にアセスメントを作成し、これらの情報を職員で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や日頃の会話の中から、本人の気持ちを感じ取り、日によって変化するその人の状態を見極める。職員はお互いに報告・連絡を密にし状況の把握に努めている。又、時間の流れにとらわれることなく、今できることを大切に支援している、		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書原案を基に担当者会議を開く、出席者でプランの検討をし、正式なプランを作成する。職員は全員それを共有し、本人主体の支援に努めている。必要時はケース会議、ヒヤリハット・事故事例検討会を開き改善に努めている。毎月のモニタリング、半年ごとの評価・プランの見直しなど状況の把握に努めている。	本人・家族の希望等を踏まえ、原案を元に家族や全職員で担当者会議を開催し、その結果を追記したプランを作成している。日々の職員の気づきや観察を生かし、介護計画担当者による毎月のモニタリング、ひやりはっつ等の事例検討や半年毎には再度家族や本人に再度聞き取りし、ADLの維持、病状の管理徹底や予防的な観点からのプラン等現状に即したプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状態に変化があれば、些細なことでもその都度一口メモに書き、それを詳細に個別ファイルに記入している。同時に管理者に報告しミーティングで報告・検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日その時によって入居者の気持ちは変化する。今散歩に行きたい・散髪に行きたい・今は休みたい・まだ寝ていたい・今はまだ食べたくない・〇〇を食べたいなど様々である。献立の変更や予定の変更、急なドライブなど状況に応じて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の商店で買い物や散髪、軽トラ朝市、地元のイベント見物。外食は楽しみの一つである。美容師来苑による散髪、障害者施設からのパンの販売。敬老会・運動会など地元老人会の参加。消防署指導による消防訓練や緊急時対応の指導。運営推進会議へ区長・民生員・老人会・地域包括センターの出席、家族との外出など地域資源の活用に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時、かかりつけ医の選択については、希望を聞き、家族の希望に添うようにしている。又、特に専門的な医療を必要とする方については、専門医受診を勧めている。入居後専門的な診療が必要になった時は、その都度家族に相談し、受診を支援している。	入居時にかかりつけ医について希望を確認しており、現在内科はホーム一階にある法人診療所を中心に月二回の受診支援が行われている。状況によっては専門医への受診についてアドバイスや相談に応じ、熊本市内等の遠方の医療機関への受診時には管理者が同行し家族のサポートに努めている。また、歯磨きや嚥下機能低下防止のためのマッサージ、訪問歯科なども取り入れながら口腔ケアの面からも入居者の健康を支えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	階下が診療所であり、状態の変化や、緊急時は直ぐに主治医の診察が受けられるため、看護職は雇用していない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や、入院中の面会、退院に向けた情報交換や調整及び、退院後の対応など介護支援専門員である管理者が医療機関との連携を取っている。退院後の継続診察同行や主治医への病状報告など回復に向けた支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、食事の経口摂取が出来なくなったり日常的な医療行為が必要になった場合を退所の目安としていることを説明している。しかし、退去に際しては、家族と話し合いを重ね、充分納得されてから次の生活の場を検討している。医療機関や施設など複数の事業所を提案し選択して頂くようにしている。	契約時にこれから全職員で最良の支援に努めていくことを伝え、経口摂取ができないことや医療行為(インシュリン対応も含め)が必要となった場合を退所の目安とすることを方針として説明している。運営推進会議の中で研修会として看取り支援について話をした際、参加者からは退所の目安や食事摂取ができない状態とは？などの質問が出されたようである。入居者の急な状態変化は否めず、速やかに希望する対応が取れるよう、家族によって緊急事態時の連絡カードや対応希望書の記入がされている。また、必要に応じ重度化した場合の家族との話し合いを記録に残している。	申し送りの時には、健康や心身の状態について伝達の徹底を図り、一人ひとりに応じた日々支援されている。家族の面会では、「元気になって孫の世話してな〜！」と語り、安心して帰宅される姿があり、今後もホームでの最良の支援が行われていくことに期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年度、救急時の対応及びマニュアルの確認をしている。又、誤嚥時の対応など内部研修にて実技演習をしている。消防署に指導を依頼し、心肺蘇生法・AED操作講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の指導を受け夜間帯を想定した避難訓練を実施(内1回は、運営推進会議にて実施し、出席者の参加を頂き協力依頼をしている。1回は地元消防団の参加を得ている)。又、それを参考に自主訓練を実施している。毎月担当者が「火気点検表」を基に出火元なる可能性がある箇所を点検、掃除している。	消防署指導により運営推進会議メンバーや、地元消防団の参加協力を得た夜間想定避難訓練をはじめ、自主訓練により有事の際の避難方法を身につけている。また、月1回、ポット・テレビ・エアコン・コンセントなどの安全点検の実施や、備蓄品について職員も確認している。強固な建物でもあり、法人として一時避難の受け入れが可能であることが地域へ伝えられている。	訓練には推進会議、地元消防団の参加や、有事の際には交流のある地域への協力を依頼されている。更に商店等との協力体制に努めることで、本人・家族の安心に繋げるものと思われる。近隣地域への告知により訓練の周知を図ることで、更なる地域との協力体制の一環としていただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「愛・尊敬・感謝」を法人の理念とし、それを基にホームの理念を上げている。職員は個人情報保護や守秘義務について研修を受け、入居者を尊重した関わりを基本に支援している。勤務中は、「腕を組まない・足を組まない」、会話の結びは「です・ます」を必ず付ける。会話は、入居者が使い慣れた「菊池の方言」を使い和やかな雰囲気築いている。	個人情報や守秘義務について、入職時や研修会の中で周知を図り、管理者は日頃から入室時は、部屋に居られなくても必ずノックをすることや、職員がテレビを見ながらの行動はケアの手を止めることになるなど、入居者を尊重したケアについて細かな指導を行っている。会話は方言を交えながら聞きなれた言葉で行い、呼称は安心される下の名で呼ぶことが多いとのことである。プライバシーや守秘義務の徹底が入職時や研修会で図られ、同性介助については、家族の希望やしばらく本人の様子を見ながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、共に暮らす生活を大切に支援を心がけ、日常生活の中で、○○しますか？、○○しましょう？と言う言葉かけをし、入居者の意思の確認をしている。又、何気ない会話の中から、今、何を望んでいるか感じ取る専門性を有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな時間設定はあるが、必ずしもその通りに行動するのではなく、一人ひとりの生活ペースを守り自由な行動が確保されている。例:仏壇の給仕やお詣り・買い物・散髪・休養・テレビ観賞・トランプゲーム・散歩・鉢植えの手入れなど様々である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は在宅時本人が購入していたものや、家族が準備したもの、職員が本人と出かけ自分で選んだものが主である。散髪は係りつけの美容室へ出かけたり、美容師さんの来苑で整髪している。顔ぞりや爪切りは入浴後職員が介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は2週間ごとに職員が交代で立てているが、その日の入居者の希望を取り入れ臨機応変に作っている。四季折々の行事食・お花見・恵方巻き作り・月見団子作り・誕生会のケーキづくりや祝膳、みんなで作った干し柿のおやつなど。年に数回は「回転すし・ジョイフルで食事、弁当持参でピクニック」を実施。調理、配膳、片付けは入居者も一緒にしている。	給食会議の中でアレルギーへの対応や、季節の野菜の活用、食材を無駄にしない工夫など献立・調理に関する事項の他、料理をカットする際、本人の目の前でハサミを使わないなど細かな内容が検討されている。食のアンケートも実施しながら、ケーキ作りや職員家族の協力による竹のソーメン流し、「巻き寿司を作りたい！」の要望には翌日に実施するなど、入居者が楽しみながら食に関わっている。季節の花が飾られた食堂で、職員も介助や見守りを行い、同じ料理や持参した弁当と一緒に摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取記録・水分摂取量記録を基におまかな一日の管理をしているが、一人ひとりに合わせた分量、咀嚼レベルに合わせた細やかな調理法で提供している。献立を作成することで、栄養のバランスが確認でき、栄養の偏りが回避できている。更に、職員会議の中で給食会議を開催し全員で検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で磨かれた後を補助している。それぞれの残存能力に応じて口腔ウエットを使用したり、モンダミンでうがいをして頂いている。又、夜間帯の義歯の保管についてはポリドントを入れて保管し細菌の増殖を防いでいる。発語のない方については、1日1回は口腔マッサージを施行し嚥下機能の低下防止をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表を活用し、時間を見ながら排泄の声かけや誘導を行いトイレでの排泄を基本としている。本人の負担軽減のために昼と夜の排泄用品を使い分け、必要時は排泄用品の見直しを検討している。夜間使用したPトイレはその都度洗浄し、衛生面にも気を付けている。	ホームには4箇所のトイレが設置されているが、歩行距離が長いことで失敗されることのないようチェック表を活用しながら声かけ・誘導によりトイレでの支援を行っている。尿失禁が多いなど、気になる場合は早めに専門医の受診を家族に依頼している。昼・夜で排泄用品を使い分け、夜間のみポータブルトイレを使用される方へも、覚醒しておられたらトイレ誘導を行うなど、状況に応じた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレ介助時に便の量や硬さの確認をし、記録すると共に、食事・水分摂取量の記録を基に十分な水分摂取に努めている。又、便秘予防として繊維質の食材を取り入れた献立や毎日の牛乳摂取・週2回のヨーグルト・さつま芋料理・豆製品使用など習慣付けている。機能訓練・体操は毎日実施。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月～土曜日まで毎日入浴準備ができています。その日の体調や気分を確認し、拒否される方については時間をおいて再度進めたり、日を改めて進めるなど本人の理解を得ている。職員とマンツーマンの入浴であり、ゆっくりとした時間で会話をしながら入浴されている。	既存の浴室であり決して使い勝手の良い浴室環境ではないが、段差への工夫や日々の掃除、脱衣所の温度管理などに努めている。基本的に週二回、失禁時にはその都度応じ、身体状況によっては二名体制での対応など安全な入浴支援が行われている。拒否の場合は時間を置いたり、別日に対応するなど本人の意思を尊重しながら対応している。	ホームの環境は古くからの名湯の地である。地域温泉施設から届けられた温泉券を活用した入浴支援も検討されており、実現に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は一人ひとりの状態や意向を確認し、自由に居室やソファで休んで頂いている。居室で休まれる時は部屋の温度や、遮光、騒音など周りの環境に配慮し気持ちよく眠れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋情報は常に閲覧できる所に設置しており、職員は常時確認できるようにしている。内服薬に変更が生じた場合は特に確認するようにしている。用法・用量・副作用についても服薬前に伝達している。又、服薬による変化など情報の共有がなされている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の手伝い・食材買い出し・洗濯物干し・洗濯物たたみ・団子作り・カラオケ・ランプゲーム・散歩・食事に行くなどそれぞれが好きな活動に参加することを楽しみにしている。又、マイコーヒーを自分で入れ楽しむ。毎朝、先祖の仏壇の給仕やお詣りが安心に繋がっている方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年行事とは別に天候や入居者の希望により地域のお祭り、催し物見物、自宅の近所の美容室へ出かける・ドライブ・散歩・花見・買い物・ぶどう狩り・姉妹の家訪問など随時実施している。	二階にあることから気軽な外出支援は困難面もあるが、年間外出計画に限らず、地域の『軽トラ朝市』に出かけたり、外食アンケートを取り、希望され食事処(丼・寿司・うどんなど)に出かけている。その際は、刻み食の方も外出できるよう料理はさみを持参するなど配慮が窺える。管理者は盆・正月の帰省を楽しみにされている入居者の思いを察し、可能な限り家族に協力を依頼している。	全介助の方も車いすでの散歩や地域の方の好意によるぶどう狩りは入居者の楽しみとなるなど、様々な外出支援への取り組みが確認された。料理番組を見ていた方が「ラーメンを食べたい！」と、発せられたがまだ実現していないようであり、是非実現していただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的な買い物用として小口現金を預かっている。それを利用してスタッフと散歩がてら自分の物を買に行ったり、ドライブや軽トラ朝市見物の時好きな物を買ったりされている。又、食材買い出しの時に買われることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話を自由に使うことができるが、希望される方は殆どおられない。今年は近くの小学校の6年生から暑中見舞いが届いたので、皆さんに読んで頂き、お礼のはがきを出して頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	病院の2階というハード面のリスクはあるが、南側に面した明るい居室であり、季節ごとに生花を飾ったり、一人ひとりの部屋には観葉植物を置き癒しの空間を作っている。職員手作りのカレンダー、季節ごとのひな人形飾り・こいのぼりなどで季節感を出している。談話室では健康体操・レクリエーション・カラオケ・テレビ観賞・ゲーム等共有の憩いの場となっている。	ホーム内は観葉植物や家族や職員の持ち寄った花がいつも生けられているようであり、訪問当日も至るところから菊の花が季節の香りを放っていた。カラオケやレクリエーション体操、トランプなどを楽しむ談話室、娯楽室ではソファに座り、テレビを見ながら食事を楽しむことを日課とされる仲良し入居の姿もあった。居室をはじめ、共用空間は清潔を心がけ、その日の担当者によって時間をかけた消毒などの衛生管理がされている。	ハード面にも金魚の水槽や植物、掲示物など職員はできる対応に努めていることが確認された。今後は壁面や掲示物など定期的な見直しを行うことで更に、温もりのある空間になっていくと思われる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の利用はオープンにしてあり自由に利用できる。食堂・談話室・娯楽室は気の合った入居者同志が談笑できるよう座席の配置を工夫している。気の合うお二人は娯楽室でゆっくりテレビを見ながら食事されている。テレビも3か所設置してありどの場所でも自由に見ることができる。	/		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、使い慣れた家具や仏壇、日用品など個人の希望に応じて持ち込んで頂く、部屋には家族との思い出の写真を飾っておられる。又、毎日仏壇給仕とお参りを欠かさない入居者もいられる。ベランダにはイチジクを育て収穫を楽しんでおられる。	以前は病棟であったことから家庭的な雰囲気という点では致し方ない面を、家族の協力や職員の工夫によって過ごしやすい居室づくりが行われている。全室南向きの部屋は明るく、観葉植物や無花果がベランダで実を付けるなど、入居者の楽しみが増している。家族の面会時にはゆっくりと部屋でひと時を過ごしてもらえるよう、『面会中』の札がかけられており、職員も廊下を通る際声のトーンなど十分な配慮が行われている。家族の帰り際に、本人の励みになるような会話のやり取りが、微笑ましい光景であった。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ケアプランとは別に、各担当者毎に能力に応じた機能回復プログラムを作成し実施している。見当識障害のある方の為の案内表示板・意思表示が出来ない方にシルバー川柳カード・身体機能が高い方は食材買い出しや自然な流れの中でシーツ交換・掃除・洗濯物干しやたたみ・調理手伝いなど日常的に支援している。	/		